

各指定居宅サービス事業者  
各指定介護予防サービス事業者  
各指定居宅介護支援事業者  
各介護老人福祉施設開設者  
各介護老人保健施設開設者  
各介護療養型医療施設開設者  
各老人短期入所施設施設長  
各養護老人ホーム施設長  
各軽費老人ホーム施設長  
各老人福祉センター管理者  
各老人デイサービスセンター管理者  
各生活支援ハウス管理者  
各有料老人ホーム施設長  
各適合高齢者専用賃貸住宅施設長  
各市町村介護保険主管課長  
各各振興局健康福祉部(串本支所)長  
各各関係団体

様

和歌山県福祉保健部 福祉保健政策局  
長寿社会課長  
(公印省略)

社会福祉施設等における家具等備品の転倒防止対策「室内対策」の取り組みについて

社会福祉施設等における地震対策につきましては、従前より適切な対応をいただきありがとうございます。  
ございます。

震災時における家具等備品の転倒防止等対策(いわゆる「室内対策」)は、社会福祉施設等内での負傷者の防止のみならず、要介護高齢者等に対してサービスを提供している社会福祉施設等の機能を維持する上でも非常に重要です。

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震など、近年発生した大規模な地震の負傷要因は、家具等の転倒、落下及びガラスの飛散によるものが大きな割合を占めております。

各社会福祉施設等におかれましては、施設や事業所内において、要介護高齢者等が利用される室内をはじめ、従業員、来訪者が使用する室内においても、家具等備品の転倒・落下防止及びガラスの飛散防止など「室内対策」に積極的に取り組まれますよう、お願いいたします。

なお、今後、介護老人福祉施設等の実地指導の際に「室内対策」の実施状況を確認する予定としておりますので、御協力をお願いします。

なお、市町村にあっては、小規模多機能居宅介護事業所や認知症高齢者グループホーム等社会福祉施設等に周知をお願いいたします。

記

【参考添付 リーフレット「家具類の転倒・落下を防止しよう！」】  
(作成：東京都総務局総合防災部防災管理課)

【参考 和歌山県が病院に対し実施している確認項目】

- ① 棚類などの天板上に物を置いていない
- ② 棚類などから収納物がはみ出たり、重心が高くなっていない
- ③ ベッドや床頭台などキャスター付きの備品類は固定している
- ④ ガラス窓の前に倒れやすいものを置いていない
- ⑤ 非常口や避難経路に倒れやすいものや障害物はない
- ⑥ 棚類やテレビ、医療機器など備品の転倒防止を図っている  
(L字金具等の使用や床、壁へ固定など)
- ⑦ 壁掛けの時計、額縁、提示版等は落下しないよう固定している
- ⑧ 収納物が飛び出さないよう、引き出し・扉の開き防止対策をしている  
(引き違い扉やラッチ、セーフティロック付きの物を採用するなど)
- ⑨ ガラスに飛散防止フィルムを貼っている

【参考 ホームページ等】

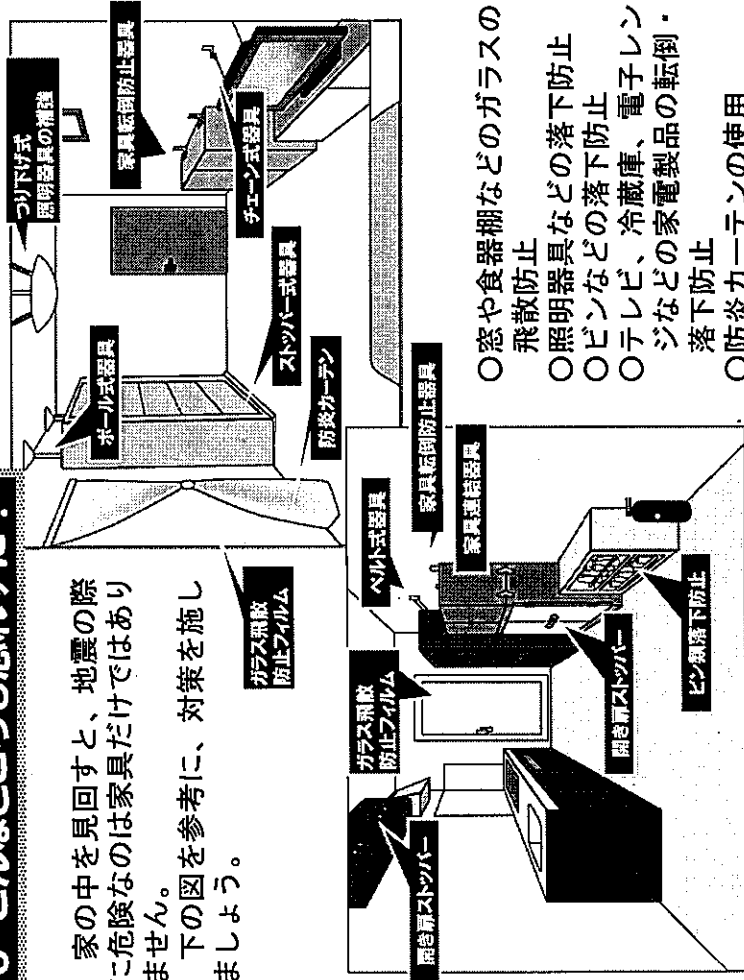
- 「地震による家具の転倒を防ぐには」(総務省消防庁)  
<http://www.fdma.go.jp/html/life/kagu1.html>
- 「家具・家電転倒防止対策」(東京都防災ホームページ)  
<http://www.bousai.metro.tokyo.jp/japanese/athome/falling.html>
- 「オフィス家具・家電製品の転倒・落下防止対策に関する調査研究委員会における検討結果について」(東京消防庁)  
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-bousaika/kaguten/okt.html>
- 「都市施設の耐震性評価・機能確保に関する研究(実験映像DVD「大地震、そのとき病院は…」)  
(独立行政法人 防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター)  
[http://www.bosai.go.jp/hyogo/syuto-pj/2010\\_4dvd\\_iryuu.html](http://www.bosai.go.jp/hyogo/syuto-pj/2010_4dvd_iryuu.html)

担当 長寿社会課 長寿社会班、サービス指導班 TEL 073-441-2527(直通) FAX 073-441-2523
--

### 3 こんなところも忘れずに!

家の中を見回すと、地震の際に危険なのは家具だけではなく、下の図を参考に、対策を施しましょう。

下の図を参考に、対策を施しましょう。



- 窓や食器棚などのガラスの飛散防止
- 照明器具などの落下防止
- ピンなどの落下防止
- テレビ、冷蔵庫、電子レンジなどの家電製品の転倒・落下防止
- 防炎カーテンの使用

### 4 どこに相談すればいいの?

家具類の転倒等防止対策に関するお問合せは、お住まいの区市町村、お近くの消防署又は東京都総合防災部まで

参考 <http://www.bousai.metro.tokyo.jp/japanese/athome/falling.html>  
ホームページ <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp/bousai/ka/kaguten/okt.html>

実際の家具等の固定にあたっては、器具を購入するホームセンターや工務店、専門業者などに相談しましょう。

区市町村によっては、高齢者などへの固定器具の購入費等の助成、固定器具の販売又は取り付け業者・シルバークリスタルセンターのあせんを行っているところもありますので、問い合わせてみましょう。

発行 東京都総務局総合防災部防災管理課  
電話 03-5388-2485 E-mail S0000040@section.metro.tokyo.jp

# 家具類の転倒・落下を防止しよう!



## 家具類の転倒・落下防止は、なぜ必要なの?

近年発生した大きな地震では、家具類の転倒・落下や割れたガラスによる負傷者が、全体の約3割～5割を占めています。地震から身を守るため、できることから今すぐはじめましょう!



平成19年7月16日に発生した中越沖地震の際の被害例

### ○家具類の転倒等による負傷者の割合

新潟県中越沖地震 (H19年7月)	40.7%
福岡県西方沖地震 (H17年3月)	36.0%
新潟県中越沖地震 (H16年10月)	41.2%
十勝沖地震 (H15年9月)	36.3%
宮城県北部地震 (H15年7月)	49.4%

(東京消防庁調べ)

## 1 まずは安全空間の確保!

家具の置き場所や置き方を見直し、室内の安全空間を確保しましょう!

### <チェックポイント> お部屋の中をチェック!

- 寝室・幼児・高齢者のいる部屋には家具を置いていないか。
- 部屋の出入口付近や廊下階段などに家具類を置いていないか。
- 地震時の出火を防ぐため火気の周辺に家具を置いていないか。
- 家具の上にガラス製品やテレビなど落下すると危険なものを置いていないか。
- 重いものを下のほうに収納し、倒れにくくしてあるか。
- 前のめりより、後ろもたれ気味に家具を置いているか。

## 2 転倒防止器具で固定する!

適切な転倒防止器具を選んで、正しく取り付けましょう。器具はホームセンターなどで販売されています。

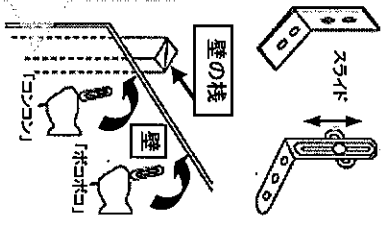
### 主な転倒防止器具の種類と取り付けの際の留意点

#### ○家具と壁を直接固定するタイプ

##### L型金具

金具で家具と壁を直接固定するタイプ  
壁の横(さん)と家具の芯材が確実に入っている位置に、長めの木ねじを使用して取り付ける。

柱がある場所は、叩くと「コンコン」と固い音がします。壁や遮音・耐火の問題などから、穴をあけない壁があるので、不明点は必ず工務店などの専門家に相談しましょう!



##### ヘルト式器具、チェーン式器具、プレート式器具

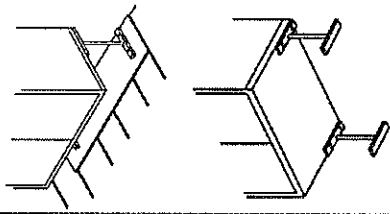
家具と壁をそれぞれネジ止めした金具を、ヘルト、チェーンなど結びタイラップ壁や家具の取り付け位置にL型金具と同様の注意が必要。家具の側面に30°以下の角度でピンと張る必要があると効果がない。



#### ○家具と壁を直接固定しないタイプ

##### ポール式器具(つっぱり棒)

家具と天井との隙間に設置する棒状のタイプ。家具の両側の側板の位置に設置する。天井に家具を支えるだけの強度がないと効果が少ない。天井側に厚めの板を渡し、板・家具とポールをねじ止めすると効果的。家具と天井との間が大きく空いている場合や奥行きのない家具には効果がない。



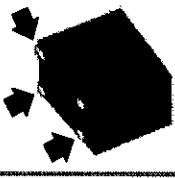
##### ストッパー式器具

家具の前方下部に挟み家具を壁側に傾斜させるタイプ



##### ワット式器具

粘着性のゲル状のもの。家具の底面と床面を粘着させるタイプ



### 家具等転倒防止器具の効果

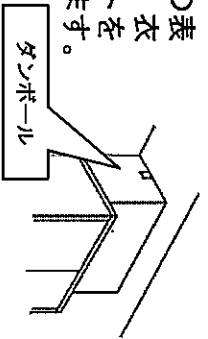
東京消防庁の実験結果によれば、L型金具で家具と壁とを直接ネジで固定する方法が最も効果が高いことがわかりました。

右の表は、その実験結果に基づき、家具等転倒防止器具の効果のイメージを表にまとめたものです。

賃貸住宅にお住まいの場合などで、家具と壁を直接固定できない場合は、つっぱり棒とストッパー式など2個以上の器具を組み合わせたと単独で使用するよりも効果が高くなります。

なお、同じ器具を使用しても、壁や天井及び床の状況によってその効果は大きく変わってきます。必ずしも右表のような効果の順番になるとは限りませんのでご注意ください。

また、実験結果にはありませんが、右の表のような器具のほか、家具と天井の間に、衣服などを詰めただ段ボール箱や収納ユニットを隙間なく置くだけでも一定の効果があります。



### 使用条件

### 小 地震動に対する器具の効果

### 大

### 取付条件

使用条件	小	大	取付条件
単独で使用した場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>「L型金具(スラット式)」</li> <li>「ヘルト式(つっぱり棒状)」</li> <li>「チェーン式」</li> <li>「プレート式(上向き取付)」</li> <li>「ストッパー式」</li> <li>「ワット式」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「L型金具(上向き取付)」</li> <li>「プレート式」</li> <li>「ヘルト式(下向き取付)」</li> <li>「ワット式」</li> <li>「ストッパー式」</li> </ul>	家具、壁面の取付け部分や器具自体に十分な強度が必要
組み合わせて使用した場合(一例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「L型金具(スラット式)」</li> <li>「ヘルト式(つっぱり棒状)」</li> <li>「チェーン式」</li> <li>「プレート式(上向き取付)」</li> <li>「ワット式」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「L型金具(上向き取付)」</li> <li>「プレート式」</li> <li>「ヘルト式(下向き取付)」</li> <li>「ワット式」</li> <li>「ストッパー式」</li> </ul>	家具の天板と天井部分に強度が必要

1. 上記は、東京消防庁が実施した実験において使用した器具の効果を相対比較したものです。  
 2. 実験は、阪神・淡路大震災(神戸湾洋気象台観測波形)の地震波強度6級相当で加震し、家具に食器棚(H1800mm、D406、W886、重量64.5kg、内容物50kg(おもちゃ))を使用して、床面はフローリングとして行います。  
 3. 天井等は固定に十分耐えられる強度を確保しています。また、使用した器具等は同型の製品でも材質、形状等が異なるものがあります。  
 これらのことから、使用する家具、室内環境、器具の性能により、今回の結果が異なる場合も想定されます。